

アンサンブル・ノマド結成25周年記念 第77回定期演奏会“委嘱・献呈作品集” vol.3:ノマドの時代



プログラム

B. カサブランカス：俳句の手帳
～9つの俳句 - 2021年版 ～日本初演
Benet Casablanca : Book of Haiku - 9 Haikus

西村 朗：ロブノール(彷徨える湖)
～10奏者のための (2022) ** ～世界初演
Akira Nishimura : Lop Nur for 10 players

近藤 譲：合歓 (2020) *
Jo Kondo : Albizzia

根岸宏輔：うす明かりの中で (2022) * ～世界初演
Kohsuke Negishi : In the Dim Light

A. ビニャオ：ノマドの時代 (2021) * ～世界初演
Alejandro Viñao : Tiempo Nómade

★ 荒木田隆子基金委嘱作品 ★★ 献呈作品

出演

Ensemble NOMAD

木ノ脇道元 (fl) 菊地秀夫 (cl) 野口千代光・花田和加子 (vn) 甲斐史子 (va) 菊地知也 (vc)
佐藤洋嗣 (cb) 稲垣 聡・中川賢一 (pf) 加藤訓子・宮本典子 (perc) 佐藤紀雄 (cond)

Guest 對馬佳祐 (va)

2023 2/5 (日)

13:30 開場/14:00 開演
東京オペラシティ リサイタルホール

チケット

	【前売】	【当日】
一般	¥4,000	¥4,500
大学生	¥2,000	¥2,500
高校生以下	¥1,000	¥1,500

(就学前のお子様の同伴・ご来場はご遠慮下さい)

チケット取り扱い

東京オペラシティチケットセンター Tel : 03-5353-9999
アンサンブル・ノマド ウェブサイト

<http://www.ensemble-nomad.com/>

お問い合わせ

キーノート Tel: 0422-44-1165
keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp

※曲目・出演者は変更になる場合がございます。
※発熱や咳など、体調不良の症状がある方や、マスクを着用されていない方は
ご入場いただけません。最新情報は下記団体ホームページをご覧ください。



主催：一般社団法人 アンサンブル・ノマド (<http://www.ensemble-nomad.com/>)

後援：アルゼンチン共和国大使館

助成：NOMURA 野村財団 公益財団法人 花王 芸術・科学財団 公益財団法人 朝日新聞文化財団



アンサンブル・ノマド 結成25周年記念 “委嘱・献上作品集”



タイトルの「ノマドの時代」はこのコンサートで世界初演されるアレハンドロ・ピニャオの曲名をお借りしました。この曲名にはアンサンブル・ノマドの結成25周年を称揚下さる意味が込められている事は勿論ですが、コロナや気候変動によって世界がこれ迄以上に不安定な時代を彷徨っている状況も意味しています。アンサンブル・ノマドがこの先、活動の中でどのように世界と時代を反映させゆくのか、また社会のなかで音楽や芸術を機能させていけるのか、困難な時代にむかうアンサンブルへのエールとして贈られた言葉でもあってと思っています。ここで演奏される個性豊かな5つの作品はそれぞれのやり方で今の時代を映しているはずですが、コンサート自体は世界から見れば小さなものですが、プリズムのように多彩な光を放つ広大な空間を想起させると思います。

佐藤 紀雄

Ensemble NOMAD



佐藤紀雄 (cond)



木ノ脇道元 (fl)



菊地秀夫 (cl)



野口千代光 (vn)



花田和加子 (vn)



甲斐史子 (va)



菊地知也 (vc)



佐藤洋嗣 (cb)



稲垣 聡 (pf)



中川賢一 (pf)



加藤訓子 (perc)



宮本典子 (perc)

Guest



對馬佳祐 (va)

東京オペラシティリサイタルホール



東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティ B1F
Tel: 03-5353-0788
京王新線「初台駅」東口下車徒歩 3 分

Ensemble NOMAD

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年度に行った第15 回定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第2 回佐治敬三賞」を、2014 年度に行った第52 回定期演奏会「再生へ vol.3: 祈り〜エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「第3 回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンボ」、2005年11 月パリで行われた「フェスティバル・アテンボ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10 月にはソウルでの「パン・ムジーク・フェスティバル」などに出演。

2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2 度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコの「セルバンティーノ音楽祭」に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月に再び中国四川公演を行い、2020年には「ライブツィヒ現代音楽祭」にonlineで参加。今後も中国、オランダやフランス、メキシコなど

での公演を予定している。また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。CDは、これまで近藤譲「梔子」、空の眺め」、「オリエント・オリエンテーション」、「表面・奥行き・色彩」、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」、池辺晋一郎「炎の資格」、福士則夫「花降る森」が発売されている他、藤倉大の「Turtle Totem」、「Diamond Dust」、「Glorious Clouds」にもライブ録音が収録されている。海外では2011年秋にエベルト・パスケスの「Bestiario (動物寓話集)」、2015年秋に「Pruebas de vida (生命の証)」がリリースされている。

2014年にはオリジナル・アルバム「めぐるーMeguru」を発売。2015年夏から秋にかけて発売された「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。

公式ウェブサイト：
www.ensemble-nomad.com/